





陀 山 0 Щ 頂 に (9月1日) て

である。大分の西さんに出発を連絡し、勇敢なパイロットに快哉を送りな港への変更か、大阪空港に引き返すかも判らないという宣告を発しながら勇躍大分空港に向かって飛び立つという。もちろん天候不良のため福岡空ム三三一便は早々に欠航を決めたにもかかわらず、大阪からの全日空便はム三三一便は早々に欠航を決めたにもかかわらず、大阪からの全日空便は がら機上の人になった。 いていた。 [発が危ぶまれていたからである。しかし羽田空港からの日本エアシステなぜなら日本に接近している台風の影響で大分地方の天候は悪く、その 八月三十日、 大 分 大阪空港の大分行きANA一八一便の出発ゲートはざわつ 醉 行

から三 (八月月例山行報告 重

	- 11
鷹ノ巣山から三陀山へ	1
倉木山	2
伊美山、黒木山	3
山行報告 (南八ヶ岳)	4
晩夏の山旅	4
山男擬き (茅ケ岳)	5
四姑娘山トレッキング⑤	5
夏休み登山	6
私の無名山ガイドブック⑪	7
国際山岳年記念	
青少年体験登山実施計画	7
お知らせ	8
後到	0

もくじ

とを確認した後、 択をした。 四十分後福岡空港に到着、 大分空港の到着ロビー 鷹ノ巣山に向かっているとのこと。そして福岡空港には、着ロビーの案内板で、一八一便が福岡空港へ向かったこ 直後に携帯 電話が鳴った。 西あずささんから

廣

恒

夫

とする。いつもの手際よさでほっいう、いつもの手際よさでほっ近くの那須さんが迎えに行くと

はどなく那須さんから携帯に 連絡があり合流、一路野峠へと 向かう。昼御飯を途中のコンビ 一ルを聞く。すぐに一ノ岳の頂 上で西母さんと安藤さんに迎え とで西母さんと安藤さんに迎え といので先を急いでいる。鷹ノ巣 がので先を急いでいる。鷹ノ巣 がので先を急いでいるとのコンビ なので、記念撮影だけを済まし なので、記念撮影だけを済まし なので、記念撮影だけを済まし なので、記念撮影だけを済まし なので、記念撮影だけを済まし なので、記念撮影だけを済まし なので、記念撮影だけを済まし



風が強く途中の岩場では強風(鷹ノ巣三ノ峰より英彦山)

いが、残置テープは豊富で一気ないのか登山道ははっきりしな 野峠へと向かう。利用者が余り 加藤さんが待っておられ一緒に 望が開ける。岩壁部分を下ると らは一ノ岳と後方の英彦山の展 望は良くないが、下り道の窓か 相変わらず風は強く、帽子を抑 情報を仕入れて分かれる。 プダウンを繰り返して二ノ岳を に翻弄される。いくつかのアッ る。頂上は木々に囲まれ余り展 えながら三ノ岳の頂上に到達す 大きな岩場に突き当たり固定ロ 返す先行パーティーと合流、久 三ノ岳を登り終え薬師峠に引き 越え三ノ岳を回り込む手前で、 ープを利用して高度を上げる。 しぶりの再会を喜び頂上までの 野峠への分岐から直登すると、

向かう。

「いまで英彦山野営場へとに、薬師峠に帰着した先行パーを、薬師峠に帰着した先行パーを、でいる間で、

に野峠へと下った。

をは更けていった。 をは更けていった。 を本が空き、加藤さんの歌声がと杯が空き、加藤さんの歌声がと杯が空き、加藤さんの歌声がと杯が空き、加藤さんの歌声がと杯が空き、加藤さんの歌声がと杯が空き、からないできる。

残ったものは遮二無二急登を続めたい川断良く引き返しを宣言。さんが判断良く引き返しを宣言。さんが判断良く引き返しを宣言。

アッける。

道はなくとも標高差は四○○

「一ルが抜ける頃標高九三一mの
「上に到着した。植林に囲まれ
た展望のない山ではあるが、の
た展望のない山ではあるが、の
た展望のない山ではあるが、の
が成ったとってそんなことはど
らでも良いらしい。屋台よろし
く店開きがおこなわれ缶ビール

あう九州の山登りであった。までも、そして今後も続くであす。今回も雨と風、懇親会と今りつきながら生ビールに喉を潤りつきながら生ビールに喉を潤を流し、特産の地鶏焼きにかぶを流し、特産の地鶏焼きにかぶを流し、特産の地鶏焼きにかぶを流し、特産の地鶏焼きにかぶを流し、特産の地鶏焼きにかる。天候の回復した大分空りであった。

道の駅で、緒方町出身の渡部さ

に出発、緒方町の「原尻の滝」

、ゲスト参加重廣恒夫(あ)、西(孝)、渡部(正)、遠江、戸田、那須、西藤、小竹、佐藤(秀)、佐藤藤、小竹、佐藤(秀)、佐藤

度さんには、心から感謝致しま とのこと。忙しい中にもかか を依頼したところ、御快諾頂い を依頼したところ、御快諾頂い を依頼したところ、御快諾頂い を依頼したところ、御快諾頂い でとのこと。忙しい中にもかか がらず、執筆いただきま さんに特別寄稿していただきま とのこと。忙しい中にもかか がらず、執筆いただきました重奏恒夫

K I

貪念山 < (923m)

(七月月例山行報告)

園田暉明

四台ほどの車に分乗して直ちの友人である後藤さんの車に同乗させて貰い、サニー・スポーチさせて貰い、サニー・スポーリに五時直前到着。

の所で車を止める。

の所で車を止める。

の所で車を止める。

の所で車を止める。

の所で車を止める。

の所で車を止める。

の所で車を止める。

老山口を示す目印のテープを 選山口を示す目印のテープを は、見つからないまま同所の はんだ砂防ダムの手前で駐車。 では、この場所は正 地んだ砂防ダムの手前で駐車。 参加者十一名の自己紹介の後 を加す、日のからないまま同所の を加す。)二〇〇メートル程 を加す、日のからないまま同所の を加す、日のからないまま同所の を加す、日のからないまま同所の を加す、日のからないまま同所の を加す、日のからないまま同所の を加す、日のからないまま同所の を加す、日のからないまま同所の

が、前日の台風で増水した流れがら、稜線に対し左に迂回して進み、途中二つの谷を渡って、進み、途中二つの谷を渡って、がら、稜線に対し左に迂回して

に足を滑らせ、又、一寸した連 に足を滑らせ、又、一寸した連

尾根は自然林で、視界も開けて心が和むが、目印のテープはを折っており、安藤さんも心配を折っており、少さな樹木の先端を折っており、からな樹木の先端を折っており、安藤さんも心配を折っており、安藤さんとは、

れる。 え進行の容易でないことが窺わ はいくつかの枝尾根と稜線が見 ち込んでおり、更にその前方に かる。)で、その先は、急に落 の高度計の値で、約二〇メート 度約六〇〇メートル。私の安物 鉄則を教わりました。) 山。(安藤さんから安全登山の んと世話役として安部さんが下 話があり、女性の阿部、安藤さ 迷惑を掛ける。」とリタイアの ル高くなっていたことが後で分 「ルートが不明のまま進んでは 少し進むと小さなピーク(高 安藤さんから

(秀)、後藤、私の五名。下った尾根は直ぐに上りとなり、さた尾根は直ぐに上りとなり、さらに進むと一面の笹が現れ、からに進むと一面の笹が現れ、からに進むと一面の笹が現れ、かって左に迂回したコースをとっって左に迂回したコースをとったことから、右に進む。三〇分をことから、右に進む。三〇分をことから、右に進む。三〇分をことから、右に進む。三〇分をことから、右に進む。三〇分をことから、右に進む。三〇分をことから、右に進む。三〇分を記が倉木山(九二三メートルになったが倉木山(九二三メートルになったが倉木山(九二三メートル)は現れず、既に過ぎている

砂防ダムの左下から杉林の中

物で林道があると思う。 のではないかと、 向こう約三〇〇メートルの斜面 に少し石垣が見え、山中の人工 、で、さらに進むと、高度千メ 先行の佐藤、渡部さんの呼び 地図を見る。 左側の沢の

位の尾根に符合する箇所があっ ら気づいたもの。安部さんに感 林道があると聞いていたことか 畑部落から前障子岩の途中まで た。(途中下山となった安部さ ースの説明をして頂いた際、上 んから、前日、地図を頂き、 相当手前、一〇〇〇メートル 地図で確認すると、前障子岩 コ

登っていた。 を掛けると稜線に向かって尚も 別行動の西さん達に、携帯電話 に納得、進行を中止。 倉木山を過ぎた地点にいること 〇〇〇メートル位となっており 渡部、 佐藤さんの高度計も一 (結局稜線に到

着できずに下山したとのこ

のある左の枝尾根を下る。 別れて、大きな樫等の照葉樹林

直ぐに、共に大きく下がってお りあきらめムードが漂う。 右側は少し進んでから、左側は ではと期待が膨らむがダメ。 尾根が少し高くなっており山頂 杉林の中をほぼ水平に進むと、 きな尾根を北東に下る。 来たルートに別れを告げて、大 **倉木山に向け出発、途中から元** ここで尾根は二つに分かれ、 昼食を済ませて一一時一〇分、 高度九〇〇メートル位になり、

> 向かう。 あるとの連絡が入り、そちらに た佐藤さんから前方にピークが いた矢先、左の尾根を調べて 出発地点へ引き返そうとして

進むと、台地状の杉林の中に倉 後尾で頂上に着いたが、標識は 岩にへばり付くようにし、て最 の4人から大声で呼ばれる。 無く失望していたところ、先行 の前に垂直状の岩峰が現れる。 樹木の中をほぼ水平に進むと目 木山の標識と三角点があった。 一二時四〇分であった。 下りぎみに一〇〇メートル程 三〇メートル程下がった後、

別行動隊のこともあり恒例の万 頂であり、感慨一入であったが かない。やっとたどり着いた山 る。二〇分ほどで、主尾根から ープが点々と杉等に巻かれてい 岳方向へ進むと、目印の赤いテ 歳をして直ちに下山開始。 ここは樹木に遮られ眺望はき 勾配の緩やかな広い尾根を烏

入る。 用心しながら進むと、勾配も緩 狭いコンクリート舗装の林道に る。道もはっきりしてきて、二、 やかとなった辺りから杉林とな 三カ所水量の多い谷を渡って、 急斜面で崖っぷちの所もあり

くになり、下界の暑さを味わい 方車で通った大規模林道に出た。 ここが登山口であった。 汗だ 少し進んで一四時一〇分、朝

出発地点に到着。 ながら四○分ほど歩いたところ、

地よいものであった。 生林の中を歩くことが出来た上 根が多く変化に富んだ地形の原 大変申し訳ありません。) に、頭の体操も加わり、 レートには着けなかったが、尾 (目的を果たせなかった方々、 今回の山行は、目的地にスト 大変心

参加者 藤(秀)、 (和)、伊賀、石川、 安藤、 佐藤 (正) 安部、 後藤、 阿部 園田、 佐

(499)

(九月月例山行 報告)

野 信 江

車をとめました。 伊美山の登山口には六時四十五 中に三角形でそびえていました。 乗し飯田さんの先導で鋸山登山 時にサニーを出発。車三台に分 落で、家が数軒あり、道ばたに 分に着きました。三畑という集 に向かいました。屋山が朝霧の 口を過ぎ、県道三十一号線を北 九月二十九日(日

って、 七時前に出発。 コンクリー 民家の横を通 ト舗装の道を

きました。西さんは「二度と来

ない」と言いつつ、

キャッホー

二十分ほど登ると、竜ガ谷無線 峠道がありました。峠から岩の 裏手がピークで、そこからヤブ 多い稜線を登り、八時に五一六 中継所に着きました。そのすぐ 登って、八時三〇分に四九六 下り、さらにヤブこぎしながら こうなヤブこぎで、一旦鞍部に の切り分けを下ると鞍部に古い 七mの三等三角点に着きました。 mの伊美山に着き、さらにけっ



た。ただひたすら、後から歩く いるのか見当がつきませんでし は、南側の一方向のみが遠望で のみでした。三角点の山頂から わからず、途中もどこを歩いて ですが、私自身は入り口もよく 赤いテープの目印はあったの (伊美山山頂にて)

中に出て、九時三十五分に車 所に戻りました。 り、さらにコンクリート道の途 を叫んでおられました。 帰路は鞍部から古い峠道を下

した。 きに、安部先生がガードレール な崖を登り始めました。帰ると ない、ガードレールの横から急 どに出発。また登山口の目印の に赤いテープを貼っておられま 金ガ峠に車をとめ、十時ちょう 次は黒木山に向 かいました。

あと、十一時十五分に黒木山の 音ではという、キーンとした高 葉樹林の中の歩きやすい道でし 稜線伝いでヤブもなく、赤いテ 十五分に到着。ここで小休止の い鳴き声も耳にしました。 があったりしました。鹿の警戒 けた跡があったり、猪のぬた場 た。木の幹に鹿が角をこすりつ ープもちゃんとついていて、照 五〇四mの小ピークに十時三 山の中に入って歩いてみると

岩の上でゆっくり食事をして、 ども、照葉樹林の中に、苔むし 下山開始です。 写真も撮り、ヤッホーもして、 た大きな岩が積み重なって、と ても感じのよいところでした。 見晴らしはきかなかったけ

りできました。その後、 ました。赤茶色の温泉でゆった 着き、帰りは夷 谷温泉に寄り十二時二十分な金ガ峠に戻り 大田村

ている清水寺の水を汲んで帰り 沓掛で、豊の国名水に指定され

もよくかいた一日でした。大分 度ほどで、天気にも恵まれ、汗 咲いていました。気温は二十六 に帰り着いたのは午後三時半頃 道脇には彼岸花などが美しく

下ることにする。

(秀)、遠江、 参加者 安部、 西、牧野 飯田、佐藤

岳と逆縦走する。

期日 二〇〇二年二月八日—— 文責 星子貞夫

鞍部である。 夏道と異なり行者

小屋からルンゼを直登し鞍部に

えない。やがて前方に稜線が近

雲は低く垂れて山々の姿はみ

ると左手に、文三郎尾根を登る

人の姿が見える。

場所:南八ガ岳 二八九九,二メ メンバー:星子、境、池辺、 長

上がる。

八ガ岳の主峰赤岳に続く中岳

らシラビソの林の中をトレース 雪し二張りのテントを設営する。 で急斜面を乗り切ると硫黄岳の 小同心の岩峰を右手に望みなが を通って硫黄岳むかう。大同心、 であった。斜面のいくら踏んで に沿って歩き、森林が切れた所 も固まらない新雪をようやく圧 すでに六○余張のテントで満杯 のキャンプサイトに着いた時は 荷物にあえぎながら、行者小屋 一〇日早朝に出発し赤岳鉱泉 日の夕刻二六キログラムの 澤、村上 以上5名

> の体調が思わしくない事もあっ 林の中の、消えたトレースを辿 げながら、一晩中降り続いてす 岳の鞍部から赤岳、横岳、硫黄 だが、意を決して中岳と阿弥陀 ないほどの強風であり、村上氏 っぽりと雪を被ったシラビソの て、縦走を断念して行者小屋に 硫黄岳の山頂は立って居られ 阿弥陀岳の斜面を右手に見上 一一日も小雪のちらつく天候 開いて方向を見極める。吹雪で ウトになって道を失い、目を見 富士山よりも寒くはないけれど されている。腰の高さのクサリ ややもすればトレースがかき消 と眼球を雪が叩く。ホワイトア ゴークルをはずして裸眼になる でゴーグルの中にも雪が積もり、 続だ。正面から吹き付ける吹雪 深い雪と鋭いナイフエッジの連 小雪まじりの強風が吹き付ける をくだる。稜線を越えて西から 養をとり、横岳に向かって斜面 山頂小屋のテラスで充分に休

づいてくる、中岳と阿弥陀岳の 峰と緊張の連続だ。 三叉峰、そして奥の院の横岳主 夜峰、日ノ岳、鉾岳、石尊峰、 も足元に埋まっている。 地蔵尾根の出会いから二十三

うになる。 が垂直に切れ落ちている。この 岳の頂上にたつ。右手は火口壁 三個過ぎると、なだらかな硫黄 り、柵に導かれて大ケルンを二 て過ぎると、道は高原歩きとな ようゃく権現岳まで見通せるよ 頃より黒雲の底辺が高くなり、 やがてソマゾエ尾根を右に見

屋もシャッターを下ろして無人 となっている。 囲のテントは全て無くなり、 テント場に帰ると行者小屋周 小

り続く。 夕方から叉雪が降り一晩中降

クに立つ。ここから主峰赤岳の

心の注意をしながら中岳のピー

雪庇を踏みはずさないように細 度で乾燥した雪は抵抗が少ない。

セルである。気温マイナス二〇

新雪の稜線は膝まで潜るラッ

空を切り裂いて伸びている。

西風で成長した雪庇の先端が淡 の稜線は東側が鋭く切れ落ちて、

い陽光に輝いて、稲妻のように

止み、撤収作業も楽である。 でしまい、今夜は寂しく寝る。 一二日、幸い昨夜の雪も夜半に 持参した酒は昨夜すべて飲ん

過ぎれば山頂である。

祠の前で

自然に手をあわせる。

歩ける。頂上直下のクサリ場を

の積もったこの季節はどこでも 山頂までは幅の広い山腹で、雪

> 楽である。 が、乾燥した紛雪でラッセルも 下山道は膝までもぐる新雪だ

雪の森は静かで幽玄の空間であ ている。シーンと静まり返った うに葉の先端から無数に下がっ に伸びて、まるで魔女の爪のよ が三〇センチもの長さのツララ を被り、木の温もりで溶けた雫 る。

晩夏 の

期日 八月二五-九月一日 北アルプス扇沢―新穂高 メンバー: 星子貞夫、池辺明美 八月二七日晴後ガス:大沢小屋発 八月二八日快晴後ガス:船窪小屋 コースタイム 5.45-蓮華岳着9.55-北葛岳12. 95m) 11. 20-南沢岳1. 15-烏帽子 40-七倉岳2.30-船窪小屋3.00 発5.10-水場発6.00-不動岳(25 小屋着2.47

八月二九日快晴:烏帽子小屋発5. 35-野口五郎岳9.00-水晶小屋-40-三つ岳6. 45-野口五郎小屋8 **侯山莊着2.37** 岩苔乗越-黒部源流発2.00-三

八月三一日快晴: 笠ケ岳山荘発3 八月三〇日快晴後ガス: 三俣山荘 45-杓子平発6.00-新穂高登山 笠ケ岳山荘3.05-笠往復0.15 -弓折岳10.10-抜戸分岐1.55-発5.40-双六小屋着8.20発9.00

シラビソの枝もすっぽりと雪

かも知れない。

がでてセーブしないといけな って大満足である。叉少し自信 地帯を歩き、待望の笠ケ岳に登 雲の平に続き自分の地図の空白

完

りのご飯で大きなお握りをただ

で二個作る。梅干までくれた。

この時期「針の木」の雪渓も

一休みして蓮華岳にむかう。蓮

此処はおやじが変わり者である ユニークな山小屋は大沢小屋。

が根は善人である。朝食のあま

星子貞夫 うんざりしながら、船窪小屋に 初日のせいか体がだるい。北葛 めて一メートル以上も深い。 いているのだ。その根は水を求 彼女はほかの草花の日陰をきら 華岳のコマクサが可憐で可愛い 岳、七倉岳のアップ・ダウンに って、一人ガレ石の日なたに咲 やせて小さい。針の木のコルで

ネパールのシェルパが一人手伝 を囲んで夜遅くまで雑談する。 である。五、六人の泊まり客と る。船窪小屋の水場は危険であ 不便で一リットル二〇〇円であ 記録があった。此処は水汲みが 宿帳に先日泊まった児玉さんの んでいる」を演奏してくれる。 ホルクローレの「コンドルは飛 かせる。料理娘がチャランゴで いをしていて、民謡を歌ってき 小屋の主人や従業員達と囲炉裏 船窪小屋はアトホームな小屋

年齢を感じる山旅であったが

口着8.

る。一歩態ると命の保証は無いて入山したのだった。

真直ぐに高瀬ダムの転落する。
真直ぐに高瀬ダムの転落する。
真直ぐに高瀬ダムの転落する。
本のシルエットが薄紅色に染ま
恋のシルエットが薄紅色に染ま
たった夜明けの空に浮かぶ。歩を
地めるとやがて眼下に高瀬ダム
が細長く光ってみえる。一九
、「大天井・
、「大天井・
、「大天井・
、「大田本」が、「大田本」が、「大田」が、「田」が、「田」が、「田」が、「大田」が、「大田」が、「大田」が、「大田」が、「大田」が、「大田」が、「大田」が、「大田」が、「「田」が、「大田」が、「

アーと言った具合である。○○社のツ山客も増えてくる。○○社のツベて天水である。此処からは登べて天水である。此処からは登

南沢岳から野口五郎岳の稜線を早朝に出たので、逢う人も無・立山・浄土・五色が原・薬師・立山・浄土・五色が原・薬師・そして黒部の東沢をへだてて・そして黒部の東沢をへだててれば針の木、蓮華、と後立山連体が望見される。

登りかえす。 黒部の源流に下り、三俣山荘にったので割愛し、岩苔乗越からったので割愛し、岩苔乗越から

> 天はゼロであった。 三俣山荘の周囲は輝く緑の這 三俣山荘の周囲は輝く緑の追 の本である。水も豊富でワイ 松の海である。水も豊富でワイ 松の海である。水も豊富でワイ 松の海である。水も豊富でワイ 松の海である。水も豊富でワイ 松の海である。水も豊富でワイ とた岳山荘はモレーンの上にあ なっ新築でホテル並のおよそ山 かしここも天水で賄っている。 いかしここも天水で賄っている。 かしここも天水で賄っている。 かしここも天水で賄っている。 かしここも天水で賄っている。 かしここも天水で賄っている。 かしここも天水で賄っている。 かしここも天水で賄っている。 かしここも天水で賄っている。 かしため、山荘か らモレーンの道を15分の距離 である。あいにくガスのため視

生存性、生存性、生存性、生物、</

全行程快晴の夜明けをむかえていまっています。

「リッター、糖分と炭水化物をあった。複式呼吸とトグル歩行めった。複式呼吸とトグル歩行めった。複式呼吸とトグル歩行が天気に恵まれて快適な山旅であった。複式呼吸とトグル歩行が天気に恵まれて快適な山旅であった。

THE THE T

完

岳」(|七0||,5m)へ山男擬き 茅ヶ

蓮谷義雄

会があり、日曜日に「ニセ八ッ」昨年九月東京に長期滞在の機

岳に山行した。とも呼ばれている山梨県の茅ケ

崎駅に早く着くのは普通電車で 崎駅に早く着くのは普通電車で

かかわらず、登山者が多かった体日でもあり車内は早朝にも候を確認して出発。早朝四時に起床し、現地の天

が、かなりの登山者が大月や甲

柱に出会う。このあたりが一五すぐ深田久弥終焉の地を示す標

八〇米程度。さらに、岩をよじ

かうとのことであった。
は、大きを楽しむ境遇で、この日はようを楽しむ境遇で、この日はよがランドである関東周辺の山山者は百名山を登り終え、ホームがランドである関東周辺の山いので乗り換えていった。

利用の登山者でにぎわっているれており、関東各地のマイカー登山口には、駐車場が整備さーで登山口へ向かう。

道に変わった。 がてトリカブトが目に付くようがてトリカブトが目に付くよう

標高一三○○米程度。一時間ほどで、登りがきつく

米もあるような巨岩で、割れ目女岩は高さ一〇米、横幅二〇

ている。

やがて稜線にでて、左にとるとがいよいよきつくなる。 ドボトルに水を満たして、女岩を右に巻き加減に進むが、登りを右に巻き加減に進むが、登りを右に巻き加減に進むが、登りを右に巻き加減に進むが、登りを右に巻き加減に進むが、水場はガイドブックによれば、水場はガイドブックによれば、水場はガイドブックによれば、水場はガイドブックによれば、水場はガイドブックによれば、水場はガイドブックによれば、水場はガイドブックによれば、水場はガイドブックによれば、水場はガイドブックによれば、水場はガックによれば、水場はガックによれば、水場はガックによれば、水場はガックによれば、水場はガックによれば、水場はガックによれば、水場はガックによれば、水場はガックによれば、水場はガックによれば、水場はガックによれば、水場はガックによれば、水場はガックによれば、水場はガックによれば、水場はガックによればないができない。

まなが、)のでは、現場のであるとのでた。 展望は、北に尾根続きの金ヶ山頂にでた。

腰を下ろし昼食にする。一人分のスペースを見つけての登山者が昼食中であった。ちょうど昼食時で五十人ほど

大船に登りたいとのことであっ大船に登りたいとのことであっ山者は、ミヤマキリシマ観賞に山者は、

昼食を済ませて下山にかかる ・を下ることとする。 ・を下ることとする。 ・の尾根の立木は防火帯のように麓まで伐採されている。 ・では中、忘れ物のように一輪 だけ咲いたマツムシソウやトリカブトが目を楽しませてくれた。 カブトが目を楽しませてくれた。 カブトが目を楽しませてくれた。

おり かいましょう かいましょう かいましょう かいまい 大名 は 無事到着。記念公園の碑には深場は 無事到着。記念公園の碑には深場は 無事到着。記念公園の碑には深場は 無事到着。記念公園の碑には深いた。 田久弥の言葉が氏の筆で「百の頂が、 田久弥の言葉が氏の筆で「百の頂が、 田久弥の言葉が氏の筆で「百の頂が、 田久弥の言葉が氏の単を下り深田記念公

ったが、私にとって山岳雑誌の 中央線利用の日帰り山行であ別れを告げた。

崎駅の高架ホームから茅ヶ岳に擬きを決め込むこととして、韮に百の喜びあり」を体感する山男

身近になった一日であった。世界だけであった本州の山々がったが、私にとって山岳雑誌の

四姑娘山トレッ キングと大姑娘

安藤セツ

目) 天気快晴 七月一六日(月曜日) (九日

手を振り別れを惜しんだ。 現地のスタッフにお礼を言っていたBC四日間お世話になったいたBC四日間お世話になったいたので、不安と期待で辿り着では美しい空を堪能している。

て暑くなり、女性軍日焼け止め音がしたが、太陽が昇るにつれきがしたが、太陽が昇るにつれりを開く時、ジャリジャリと早朝テントの裾は霜でファス

歩きとなる。 駄目」の結論が出たり楽しい山 こわすだの「馬が食わねえから ゴにこれは大丈夫だの、お腹を 落にカメラを向けたり、草イチ 復路の余裕、ウスユキソウの群 Sさんは馬で下る事になった。 クリームを塗る。体調を崩した

揚さんに謝々。 日焼けした笑顔が素敵で優しい 揚さんとはホテル前でお別れ。 ボトボ歩く足取りは重かった。 たからか、炎天下ホテルまでト 間に四姑娘山の美しい姿が私達 草原は終る。パコダとタルチョ 口に着き「終わった!」と思っ 撮りながら下って行った。登山 道を下るのみ。思い思いに花を 景をカメラに収めた。あとは山 を見送る。名残を惜しみこの風 が異国情緒を添え、針葉樹との パコダが見えて来ると美しい

と叶わぬ事を思った。午後、バ てくれない。やっと止まってく 道が狭くドライバーさん止まっ リ草、ブルポピーが見えようが、 四、三二〇米、車窓からアツモ を急ぎ停まらなかった巴郎山峠 スで臥龍へ移動する。往路は先 がいっぺんに取れるであろう等 冷たい流れに又入れたら、疲れ った。この火照った足を海子・の 「西瓜ですよー」西瓜で生き返

間。メコノプシス・ヘンリキー、 紫色の優美な芥子の仲間。メコ く薄い花びらの繊細な芥子の仲 メコノプシス・プニケア、赤

> あった。 車中でも興奮覚めやらぬ面々で く、「ウットリ」としてしまう。 系、フウロウでさえ色濃く美し 茶だ。花の図鑑を移したような 花を三脚も立てずに撮る方が無 かしい、しかも短時間で揺れる 芥子は色が濃く花数が少ない。 あり花が沢山ついている。青い 間。青い芥子も同名だが草丈が の美しい花びら、青い芥子の仲 コノプシス・ホリドニラ、空色 黄色の可憐な花芥子の仲間。メ ノプシス・インテグリフォリア、 自然の中で花を撮るのはむず 日本で見慣れたシオガマ

体は細いが力のある娘、効く"年の足もみの快感を思い出す) ずに眠り込んだ。 たと聞く。サボッたな。夢も見 他の人は五〇分から六〇分だっ 落とす。一二〇元で全身マッサ 五分位だったと、同室のKさん、 あとは気持ちよかった。私は三 ージをしてくれるという。(昨 イテテ・・・は太股と脹ら脛。 臥龍のホテルで五日間の垢を

夏草や馬の食む口 おかしけり

荷を背負い馬は夏草

名残惜しタルチョはためく 食み続け

夏の嶺段々畠の南蛮花 夏野かな

せつ

目) 天気くもり 七月一七日 (火曜日) (一OB

> が甘さは充分であった。 との値段の交渉中、実は小さい ドを買った。店の外では桃売り でもいいかと水晶とやらのヘッ まる。一八〇〇円ならニセモノ 身振り手振りで値段の交渉が始 店に寄る、その顔は皆同じ顔だ が店に入ると目つきが変わり か。トイレ休憩を兼ねて土産物 五日ぶりにベッドで充分眠

明等の大きな像が祀られていた の事で皆かなりのお買物。 る店だった。香港空港が高い都 れぞれの売場へ。日本円も使え しい人、ワインが欲しい人、そ トへ、筆が欲しい人、お酒が欲 が、遺品はないそうだ。廟をひ 界"劉備、関羽、張飛、諸葛孔 イナアー。2スーパーマーケッ と回りして外に出る。ムシアツ 成都博物館へ、"三国志の世

足で、大いに飲み、食べ、大 美味しく又珍しく、これまで辛 運ばれてきた。いきなり天井か った面々、今夜ばっかりは大満 い!油っ濃い!等と不服の多か 目頭を抑えていた。どの料理も の旅二度目のバースデーケーキ ある音が流れ皆を驚かせた。こ ら生バンドかと見回す程迫力の す」大きいバースデーケーキが のご相伴とは嬉しい。山田夫人 「今日は山田潔さんの誕生日で .盛り上がったのです。 最後の晩餐、薬膳料理店へ、

ビールよし頭と骨の皿の魚 子胡瓜四川料理に舌鼓

りのご褒美かもしれないと思う こそ登頂できた五,〇二五米で あり、これまで続けて来た山登 らポツポツと雨が降り出した。 し、気持ちよく送り出してくれ ふり返ると天気に恵まれたから 六時十五分ホテル出発。途中か ので五時起床、ロビー六時集合、 目)天気くもり空港は雨 七月一八日(水曜日) 成都空港が八時十五分と早

た夫への謝々・・・。 夏雨や会うは別れの 汗ぬぐうこれより先は 夏の雨翼光らせ大空に はじめとは

夏の夜夢うつうつと 達成を土産に翼雲の峰 バス走る

児 玉 章 良

と思っていた。ところが、いざ いし、結局山に登ることもない 新婚旅行の関係で行けそうもな 生と昨年計画を立てた北海道も、 ターハイに行けないし、佐藤先 委員長が変わったせいで、イン 本年度の夏休みは、登山専門

せつ った。 県」に縁があって行くことにな 始まってみると早々に「佐賀

十一日

等)、鷹取山 (三等)、鎮西山、 千部山 (二等)、石谷山 (三 佐賀県の山(山と渓谷社)」を ていたが、日程の関係で残念し 等)。計一六山だった。本当は 趾)、亀岳(三等)、笛岳(四 立山 (二等)、作礼山 (二等)、 土器山(四等)、日ノ隈山、金 城山(勝尾城趾)(四等)、九 た。杓子ケ峰(三等三角点)、 眉山 (三等)、城山 (古湯城 八幡岳(二等)、女山(船山)、 十一号線を利用し、登りに登っ 高速道路に並行して走る国道三 大和市を拠点にした計画だった。 買い込み、計画を立てた。佐賀 「天山」と「彦岳」まで予定し さっそく「分県登山ガイド

せつ 指導標、山頂に山名板はないと 特に、大分県みたいに案内板: いってよい。 てはまったく整備されていない。 少ないせいだろうか、山によっ 水場もほとんどない。登る人も のこの時期はかなりこたえる。 佐賀県の山は低いので、

頂まで行けるのは「九千部山」 なブッシュである。楽に車で山 埋まっていた。「眉山」は相当 逆にこの山の三角点は草の中に な車道が上ってきていた。山 標識も立派なものがあったが、 みると、七合目ぐらいまで立派 「鷹取山」は苦労して登って 頂

岳」。ほとんど車で行けるのは また今回は、行く山、 趾)」「亀岳」。逆にきついの 大蛇と対面できた。 は「土器山」「女山」である。 「作礼山」「城山(古湯城 行く山で

計九山だった。 宇目町) 本宮山 (三等、本匠 目町)朝日岳(宇目町)城山 山(四等、臼杵市)中ノ峰(二 た。武山(二等、野津町)横岩 ことで、生徒を連れて山に登っ 村)石鎚山(四等、本匠村)。 (三等、 等、直川村) 今城山 (三等、字 できる里の山)」を作るという イドブック(三重町から日帰り スが文化祭で一人一冊「山のガ 残りの夏休みは、自分のクラ 宇目町) 板戸山 (二等、

のは幸せだった。 ーザ (4634m)」を見れた ン (4447 m) 」 「モンテロ 鉄道に乗ってであったが、「ア :フランスに行ってきた。登山 三十一日まで、ドイツ:スイス 158m)」と「マッターホル イガー」:「ユングフラウ(4 かし、終盤二十三日(金)から 足りなかった夏休みだった。し 合計すると二十五山。少し物

私の無名山ガイドブック印 稜が見える。

城 山シリ 1 ズ(四

飯 田 勝 之

小

の城山(六0三、む)

見あたらない。 山城の跡等にまつわる記述等は 上に城山の標記はあるが、昔の の、小野市の城山である。地図 を見せているピークが今回紹介 ーク群の、東の端に盛り上がり 連なる小表山や鷹ノ巣などのピ 国道三二六号線を三国トンネル から宇目町にはいると、右手に 今回も宇目町にある城山である。 回の西山の城山に続いて、

はそこから緩い下りになる。こ る。同林道を梅津峠に向かって は右側が大きく展望が開けて、 ってくるとその五〇〇ほど手前 ある。これが城山で、林道を登 向に小さく盛り上がるピークが がほぼ平坦になるところの東方 の峠から約一kmほど手前の、道 がる稜線を横切る峠があり、道 いき、大石山から小表山につな しながら少しづつ高度を上げて 進むと、二車線の林道はカーブ を利用すると容易に山頂に立て 始まる、大規模林道宇目小国線 六号線の字目町小野市越野から この山に登るのは、国道三二

> 天然林側から踏み込むと歩きや 前の天然林との境目に沿って、 はないので、スギの造林地と手 りから取り付くと良いが、登路 登り口はそのほぼ平らなあた

向かって進む。右は造林地、左 れ落ちているので、右(南)に 部に着く。鞍部の東側は急に切 林道から一〇分ほどで小さな鞍 の稜線に向かって登っていくと、 となり傾斜がきつくなる。左上 林となる。 行き当たり、そこより上は天然 数分登ると岩の多い急な斜面に は天然林の境を、稜線に沿って って踏み込むと、スギの造林地 平坦な林内を前方の峰に向か



急な斜面の登りやすい所を 城山山頂

> 頂上の一角となる。 やかな稜線上となる。進路をや りながら登ると、すぐにやや緩 を進むと、ほどなく東西に長い や左(東)向き変えながら稜線 んで、岩や木の幹や枝につかま

な踏み跡が下っている。これが た方向と反対側の稜線に、小さ あろうと思われるが、登って来 る。それ以外に山頂を示すもの ひょっこりと三等三角点が現れ 木立の中の明るい稜線の中に、 何処につながっているのか分か は何もなく、ここを目指して登 々が望まれる。少し行くと低い 天神原山などの宇目の南部の山 山にかけての峰々や、鷹鳥屋山 ってくる者など誰一人いないで

します。

は、当日の会員の協力をお願い たが、この計画実施に当たって

すめる。 かり目印を付けていくことをす い地形なので、登るときにしっ 稜線上は距離は短いが迷いやす 下山は往路を引き返すのだが

◇二万五千分ノ一地図 分→小鞍部→一○分→大規模林 →小鞍部→一〇分→城山→一〇 大規模林道字目小国線→一〇分 ◇参考タイム 中津留

験際 登 山岳 年青少年 画

岩の上に立てば桑原山から傾 実施要領は次の通りとなりまし 山の実施計画を決定しました。 二年)を記念する青少年体験登 めていた、国際山岳年(二〇〇 今年度事業計画として実施を決 員会が開かれ、四月定期総会で 分市コンパルホールで支部役委 一〇月一七日午後七時から大

青国一少四年山年

ことを目的に体験登山を実施す 豊かな自然に接し、山との接し 過ごされている若者を対象に、 会に、青少年期の多感な時期を 日本山岳会東九州支部もこの機 国際山岳年として位置づけられ ることとし、そのための参加者 を学んだり、体力づくりをする 方や山における基本的なマナー 山登りを体験することにより、 かかわりが試みられています。 人を改めて問い直す記念の年と して、さまざまな角度からその ており、国際的に環境、自然、 主当 二〇〇二年(平成一四年)は

を募ることとしました。

二、実施時期

曜日) 平成一四年一二月八日(日

三・主催

日本山岳会東九州支部

TOSテレビ大分、OAB大 大分放送局、OBS大分放送 分朝日放送、FM大分 大分合同新聞社、NHK 大分県教育委員会、竹田

五 実施場所(登山する山) 祖母山系の越敷岳と緩木山

(ともに竹田市)

登山コース

りスタート〜仙人枕〜越敷岳 林道~緩木神社 県境稜線~緩木山~石塔~ 竹田市宮砥、緩木神社前よ

同伴や、中・高校生以外の若 は問いません。従って、家族 者も参加できます。 すが、参加希望があれば年齢 原則的に中・高校生としま

Λ.

中・高校生以下の年齢… 上記以外…3,000円 (ともに保険料含む) 1,000円

服装・携行品

登山できる靴及び服装、雨 防寒着、食糧、水、その

品等は事務局が準備します) (地図、無線機、救急医薬

一〇:指導

目的地

上塚山(元芸. 台)

日田市と山国町境の三等

行います。 日本山岳会東九州支部会員が の講演や登山中の実地指導は 当日若干の登山教室として

時を予定しています。 います。大分駅帰着は午後五 貸し切りバスで登山口に向か 午前七時大分駅前集合で、

二・参加締め切り

十一月二十日まで

三・参加申し込み 年)の申し込み可 電話番号、年齡、学校名、学 または電話で(住所、氏名、 申込先 日本山岳会 封書、ハガキ、FAX 東九州支部事務局

TEL·FAX 097 サニースポーツ内 大分市府内町一一三一一六 (532) 0926

知

月月例山行の

× たが、都合により一日繰り上 げ実施となりました。 一〇日(日)となっていまし 四月定例総会時の計画では 時 十一月九日(土)

していします。 岳滅鬼山への縦走を計画 三角点

日程等 出発。多少のヤブこぎが あります。 九日午前五時サニー

十二月月例山行の ご案内

日 目的地 時 熊本県矢部町。内大臣峡 に聳える岩稜の山。三等 馬子山(二五旬) 十二月二二日(日)

日 程等 二一日 (土) 午後八 時サニー出発。ただし、 出発に変更することもあ により、二二日の早暁の 参加者同士の打ち合わせ

一月月例山行の

· 目的地 時 西面の障子の峰。三等三 福岡県英彦山町。英彦山 障子ケ岳(鉛針) 一月一九日(日)

方で、どなたか黒い帽子がザッ 野営の時、帽子を紛失された方 集室まで御連絡下さい。 りませんか?お気づきの方は編 クの中に迷い込んでいる方はあ がいらっしゃいます。参加者の 三陀山)、英彦山キャンプ場で 八月の月例山行(鷹ノ巣山、

採取していると、一緒にいた 黄色のキノコの群を発見。こ しみにしています。 たいところですが、来年を楽 いとのことで、間違いなくこ で調べると類似のキノコはな 妻は不安顔。持ち帰って図鑑 れはたぶんコガネタケだ!と 山麓の道を歩いているとき、 私の経験です。急いで味見し ですが、一年ほどゆっくり待 やはり山の土産として沢山頂 方に岳梅(クサボケの実)を だきました。今年も別のある った方が美味しいというのが ーで果実酒づくりしたところ きました。早速ホワイトリカ 大好きな果実酒にさせていた ルナシの実を山の土産に頂き 昨年は今ごろ、ある方にサ 一〇月始めのある日、崩平

・日程等 一九日午前五時サニ

帽子の紛失届

毎年今ごろネパールに行く にして、美味しいビールのつれはコガネタケ。バター炒め 備準備・・・。留守を守る娘 他のことはそっちのけで、進 ズから更に奥に向かってる頃 後にして、今ごろはカトマン 事務局長は、とつくに日本を のを楽しみにしている、支部 まみとなりました。 の方は諦め顔? か。出発の一〇日も前から、

日本山岳会東九州支部報 9号

20 (平成14年) 1 0月25日 2年 2年 (平成14年) 10月25日 梅 木 秀 徳 飯 田 勝 之 〒870-0021 大分市府内町1-3-16 サニースポーツ内 西 孝子 TEL·FAX 097-532-0926 - 佐藤正八 発行者 編集者 発行所 孝子方

題字